

まちづくり市民フォーラム 基調講演後のご質問&ご意見 及び 回答一覧

番号	質問・意見内容	回答	質問/感想/意見/不明	オンライン/会場
<p>1～5：【講師（平賀研也氏）からの回答】 ※質問・意見については、「オンライン（入力順）→会場」の順で掲載しています。</p>				
1	<p>「みんなの」と考える場合、どうやって「みんな」を集めるものですか？</p>	<p>今、「図書館とは何か」「本とは何か」「読書とは何か」が問われているのと同じように、「みんな」とは何（誰）か?について考えることが必要だと思います。 図書館は「すべての人」が情報にアクセスする基盤であり、すべての人にとっての「知る自由」を実現し、それを通じて人々の社会参画を促すことが使命です。 しかし、その使命は、「すべての人=みんな」に何か同じことを伝えたり、教えたり、導くということではありません。 それぞれの困ったこと、好きなこと、やりたいことがつながるような、「情報のかたまり」や「機会」や「道具」、そして何よりも、それを共有できるような「場」をつくるのが大切だと思います。 具体的にはまたお話しする機会があればいいと思いますが、講演で使ったスライドにもいくつかの事例があったと思いますので、ご覧ください。 https://www.slideshare.net/kenyahiraga/210801gamagori【スライドデータ】 新しい施設が、多様な「わたしたち」が形成され、いきいきと交流し、地域社会に参画する場になると良いと思います。</p>	質問	オンライン
2	<p>貴重なご講演をありがとうございました。複合から融合施設へというお話の中で、図書館を社会教育施設というこれまでの考えでとらえることに疑問を感じました。知の拠点かつまちづくりの拠点として、捉えることの方がいいように思います。図書館は、子どもからお年寄りまで、学びを通して、人生を豊かにできる生涯学習の中核施設であると思います。また、別の面では産業育成や高齢化や健康、子育てについての施設としての可能性もあると思います。また、こうした融合施設を目指す場合、中心になる人材をどうするかという課題があると思います。伊那市や県立長野図書館での人づくりにも触れていただけると幸いです。なお、蒲郡市立図書館は、管理について指定管理方式を採用しており、NPO法人が図書館司書も増やし、時間も延長するなど、指定管理方式の図書館としては、成功していると思います。ただ、融合施設を目指す場合、全体をプランする人づくりが大切だと思いますが、先生のご経験からどのように取り組まれたのでしょうか。（感想を述べさせていただきます。）</p>	<p>その通りだと思います。 「図書館」「ミュージアム」「社会教育」「生涯学習」…そもそもそれは何であったかを今一度考え、今の時代に求められる「知る」「学ぶ」に応えられるように、それらの機能や情報・人・空間を整え直す必要があります。 「人づくり」ということを言えば、主役は市民です。そしてその中にすでに課題やアイデアや技能は存在するのだと思います。「人をつくる」のではなく、課題や楽しみを共有する場を整え、人をつなぐことで、自ずとそれぞれの自治体らしい「知の拠点」「まちづくりの核」ができるはずだと思います。 運営する人・組織は「サービスを企画・提供する」のではなく、そうした情報・人・空間の「場」を整えること、マネジメントすることが役割です。利用者や市民をサービスの消費者だけに留めおかないということでもありません。 施設の利用者ではなく、まちの誰が何を求めているのか、その誰にどんな人、どんな情報、どんな機会をつなげたら何が起るのか、そんな思考をし、あくまで対等な立場で対話できるようになること、それが可能な空間や情報を整えることが長野での実践でした。 蒲郡市が目指す「市民協働」とはそのようなものなのではないでしょうか？そのような在り方を業務内容として明記し、また空間を用意することができるのであれば、指定管理であれ、直営であれ、「知の拠点」「まちづくりの核」として機能するはずだと思います。</p>	質問	オンライン
3	<p>図書館活動として、”地域の情報を掘り起こし、地域の人に伝えること”と言及されていましたが、具体的に地域のどのような情報を、どのように収集し、どのような手法で情報伝達をしているのでしょうか。</p>	<p>これまでも、地域図書館の重要な機能の一つは地域資料の収集と保存でした。収集対象は出版もしくは刊行された印刷”物”を中心とする媒体（メディア）、情報を創るのは限られた人（著者）、情報を選別し、収集・分類・保存する主体は図書館の司書でした。 情報の範囲は、図書館の分類（思想・歴史・社会・自然・産業・文学…）の全てにわたり、資料の種別で言えば、本・新聞・雑誌・地図・広報誌・自治体刊行物などです。 この四半世紀、主にICT技術のおかげで、情報の媒体の姿も、創りだし発信する人も、情報を選んだり触れる機会も多様になり、誰もがより自由にできるようになりました。教科（知の体系）を学ぶというだけでなく、より暮らしに根ざした視点で、自ら情報を創り出しながら学び、知ることができる時代です。 例えば、家にある写真アルバムの写真を持ち寄り、この150年の街の姿や暮らしの様子を語り合い、意味づけ、デジタルにして地域の人々と分かち合ったり、学校の地域学習に役立てたり、世界に向けて発信することもできます（記憶を記録する地域アーカイブの構築と利用）。 まちの人、モノ、コトを図書館で調べて記事にして観光や学習の素材として活用することができます（例えばインターネット百科事典の項目をみんなで作るウィキペディアタウンという活動をする図書館もあります）。 また、地域で働くこと、事業をすることについての人・モノ・コトの情報や事例を集め、発信することもできます。 この時に、もちろんひとりでこうしたことをすることもできますが、地域の「わたしたち」の記録や課題をみんなで語り合いながら創ったり、解決したりする活動や場にこれからの「図書館」がなることもできるはずだと思います。</p>	質問	会場

まちづくり市民フォーラム 基調講演後のご質問&ご意見 及び 回答一覧

番号	質問・意見内容	回 答	質問/感想 /意見/不明	オンライン /会場
1～5：【講師（平賀研也氏）からの回答】 ※質問・意見については、「オンライン（入力順）→会場」の順で掲載しています。				
4	コロナ禍を意識していることは、ありますか？	<p>「知る」とか「情報」という世界が変わった(2000年代からウェブ・ネットワークコミュニケーションの世界になった)というお話をしたと思います。そのように変わってしまった世界に対して、私たちがどう対応するかということ、図書館やミュージアム、そして学校などの「知る」「学ぶ」場がどう対応するかということと、コロナ禍に対してどう対応したら良いかということは、実は同じことです。</p> <p>コロナの問題が起こる前から答えないでいた宿題に、私たちは今急いで取り組まなければなりません。</p> <p>十分説明できませんでしたが、On Site(施設内)とOff Site(施設外)・On Line(デジタル)とOff Line(出版物・現物)のお話をいたしました。</p> <p>図書館、ミュージアム、学校は、施設の外でもデジタルでも(Off Site / On Lineで)「知る」「学ぶ」機会や仕組みを用意することが大切です。</p> <p>しかし、それは施設内や出版物・実物はいらないということではありません。人と人がつながり、共に考え、創るために、実際の空間や出版物や現物が果たす役割はとても大きいのです。</p> <p>どんな「知る」「学ぶ」体験をどんなふうに行きたらもっと豊かで楽しく、そしてみんなと共になにかを創り出せるのか今考え、空間や人とのつながり方や、あるいは手段・機会(プログラム)を創りだすことが大切です。</p> <p>その例として県立長野図書館が新しく作ったウェブの情報の仕組みと実際の空間をご紹介します。ぜひご覧ください。</p> <p>*信州ナレッジスクエア https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/portal.html *信州・学び創造ラボ https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/guidance/atsumaritai/manabilabo.html</p>	質問	会場
5	<p>講演ありがとうございます。図書館や市民会館、科学館については、公共空間での交流や複合化・融合化のイメージがなんとなくではありますが、浮かんできました。</p> <p>しかしながら、博物館においては、施設の機能上、なかなか交流や複合のイメージが湧いてきません。平賀さんにお伺いしたいのですが、「博物館」が他の施設と連携したり、施設が複合していたり、そういった事例があるのか、もしくは、どのように取り組んでいけば交流が促進したりするか、何かありましたら、ご意見をお聞かせください。</p>	<p>図書館、博物館、美術館のそれぞれを見ても、既に昔のような「読書の館・本の館」とか、誰かが意味づけした物(博物・美術)を「鑑賞する場」ではなくなっています。</p> <p>博物館や美術館の多くが、ワークショップ(参加型講座)などを通じて学んだり「自ら創り出す」活動を促すことに取り組んでいます。この意味では、それぞれの機関の中で行われている「知る」「学ぶ」の境界がすでに溶け合い始めているということもできるでしょう。博物について調べたり、学んだりするには資料(本などの資料)が必要です(博物館や美術館の中にライブラリーを持つことがあるのは元来そのためです)。</p> <p>しかし、かつては、そうしたそれぞれの機関の取り組みを連携させようとしても、単に同じテーマでそれぞれ企画を考えるというような話にしかありませんでした。</p> <p>では、これらの施設間の「連携」とはどのような領域で、今だからこそ可能であり、また求められているのでしょうか。</p> <p>その第一歩は、それぞれが持つ情報を統合的に探し出し活用できるようにすることです。デジタルアーカイブの構築などがそれにあたります。</p> <p>ヨーロッパではEuropeanaという仕組みが欧州中の図書館・ミュージアムのデジタル化された収集資料を統合的に検索し活用できるようにしています。日本でもジャパンサーチという仕組みが動き始めました。</p> <p>https://jpsearch.go.jp</p> <p>地域においても、このように収集物の種類を超えて検索したり、利活用できるような仕組みを持つことが肝要です。</p> <p>(長野県については4番の回答をご参照ください)</p> <p>こうした情報の基盤の上に、実際の空間や機関の事業の領域を再構成し、どう融合させて、多くの人々が本(資料)、博物や美術を活用できるようにするかと考えるのが今の取り組み方のスタートだと思います。その情報があるのは図書館やミュージアムだけではないはずです。</p>	質問	会場

まちづくり市民フォーラム 基調講演後のご質問&ご意見 及び 回答一覧

番号	質問・意見内容	回答	質問/感想/意見/不明	オンライン/会場
<p>6～32：【蒲郡市からの回答】 ※質問・意見については、「オンライン（入力順）→会場」の順で掲載しています。 なお、内容が重複しているものについては、まとめさせていただきます。</p>				
6	図書館を社会教育施設としてとらえること自体を考える必要があるように思いました。	法律上、図書館は社会教育施設に定義されていますが、今後の利用のされ方によっては、ご意見のような視点も考えられると思います。	意見	オンライン
7	平賀先生貴重なご講演をありがとうございました。	ご視聴ありがとうございました。	感想	オンライン
8	建築士になりたいと思っている中三の女子です。	ご視聴ありがとうございました。	感想	オンライン
9	一つの自治体の施設について、スタートから実際に活用されるようになるまでどれくらいの時間がかかっていますか？建物は建てずに今あるものを活用した場合どうでしょうか？	施設規模にもよるところもありますが、社会教育施設のような大型施設は、【「構想」→「計画・基本設計」→「実施設計（2カ年程度）」→「建設（2カ年程度）」】といった工程が考えられます。また上記の工程のほかに、民間資金活用などさまざまな検討が必要になるため、一概には言えませんが、少なくとも5～7年は掛かるのではないかと思います。 また、既存の施設を活用する場合においても、新たな機能を加えたりする場合は、上記と同様の工程は必要になるため、設計や工期の期間が短くなることはありますが、少なくとも4～5年は必要になるのではないかと思います。 なお、単独施設においての大規模改修においても、3年程度は掛かるものと思われま。	質問	オンライン
10	今回の講演を聞いて、蒲郡は海と山が隣接している土地なので、その両立した自然を活かした公共施設があるといいなと感じました。例えばですが、水族館と植物園をまとめた施設があったりすると、付近の小学生や中学生も夏休みの自由研究の議題の一つに出来たりするのかなと思います。	ご意見ありがとうございます。 蒲郡市の自然の特色を活かす視点は、小中学生の教育にとっても良い効果が望めそうです。 新たな公共施設のビジョンの参考にさせていただきます。 グループヒアリングにおいて、ご意見を共有させていただきます。	意見	オンライン
11	平賀先生ありがとうございました。図書館で同じ興味や趣味を持つ人同士で集まって調べたり学んだりする場を作ったら楽しい場所になると思います。にぎやかな雰囲気図書館も来やすくていいのかなと思いました。	ご意見ありがとうございます。 新たな「図書館」のビジョンの参考にさせていただきます。 グループヒアリングにおいて、ご意見を共有させていただきます。	意見	オンライン
12	平賀先生の話の中で、複合施設から融合施設へという方向性に共感しました。様々な具材を多種多様にアレンジして調理することで、様々な可能性の広がりを得られると思いました。	ご意見ありがとうございます。 『融合施設』という考え方は、今後の公共施設において、新たに取組むべき視点の核にもなるのではと思われます。 グループヒアリングにおいて、ご意見を共有させていただきます。	意見	オンライン
13	隣の西尾市では公共施設のPFIでだいぶ揉めていますが、蒲郡市にPFIは合っていると思いますか？また、仮に蒲郡市でPFI事業を実施する場合はどのような事が問題になると思いますか？	民間資金等を活用する「PPP/PFI事業」について、現時点で蒲郡市は導入実績はありませんが、本市と同程度や本市以下の人口規模の自治体において、取り入れている実績はありますので、活用の可能性はあると考えています。 また、本フォーラムのパネルディスカッションにおいて、市長から紹介しました「蒲郡市東港地区まちづくりビジョン」(案)においても、「PPP/PFI事業」の推進を掲げており、今後様々な事業において検討する予定です。 仮にPPP/PFIを実施する場合について、活用する事業により課題や問題が異なると思われるので、一概には言えませんが、一般的な課題といえる「PPP/PFI活用事業における活用の正当性」「地元企業の参画」や「民間事業者への周知」といったことが想定されます。	質問	オンライン
14	私は図書館を、印刷を目的に利用していたのですが、現代では綺麗なプリンターが安く手に入ることもあり、印刷のためには利用しなくなりました。 現代では企業等が行っている3Dプリンターによる印刷や3Dモデルの撮影ですが、図書館などの公共施設にて利用できるようにする予定はあるのでしょうか？	ご意見をありがとうございます。 現時点では、施設の将来ビジョンの策定検討の段階で、具体的な整備計画についてはまだ検討しておりません。 具体的な整備計画を策定する段階で、市民ニーズに伴い、必要に応じて「3Dプリンター等」の機器の導入についても検討される場合もあると思われま。	質問	オンライン
15	私は、地域課題の解決につながる取組みを継続的にやりたいと考えています。（子ども食堂やひきこもり支援など）ただし、市民グループが主催で行うにあたり、週1回などの頻度で継続的に利用できる施設の確保が難しいと感じています。新たな公共施設では、地域課題の解決につながる市民活動の活動拠点として利用できることを希望します。	ご意見ありがとうございます。 「継続性」については重要な視点であると同時に、非常に難しい課題であると思います。 新たな公共施設のビジョンの参考にさせていただきます。 グループヒアリングにおいて、ご意見を共有させていただきます。	意見	オンライン
16	蒲郡市外に住む大学生です。蒲郡市の科学館と博物館について調べてみたときに、あまり魅力を感じなかったです。逆に竹島水族館はメディアでも多く取り上げられており、市内外から多くの人を訪れていると思います。博物館だと、蒲郡の歴史を取り上げた常設展の強化などが考えられます。	ご意見をありがとうございます。 竹島水族館の発信力・企画力は、大変素晴らしいと思います。社会教育施設も固定概念にとらわれず、さまざまな企画・発信をしていく必要があると考えます。	意見	オンライン
17	現在の蒲郡市のバス路線は蒲郡駅南口側（海側）に集中しているかと思いますが。観光を目的とした人は良いのですが、日常的に利用したい場合は市役所や同じ通りにあるイオンなどの生活で使う場所の近くにはバス停がありません。 バスの利用がしづらいのですが、どのような使い方を想定しているのでしょうか？	現在、市内では、名鉄バス路線に加え、日常のお出かけのためのコミュニティバスが5地区（形原・東部・西部・三谷・大塚）で運行しています。市民の皆様への周知を進め、より利便性の高い公共交通を目指してまいります。 ご意見ありがとうございました。（交通防犯課より回答）	質問	オンライン
18	平賀先生、ご講演ありがとうございました。海を感じる空間が私、市民、訪れた人々にとって家、職場（学校）に次ぐサードプレイスになるとよいですね。蒲郡の海は大好きですが、日差しが強く長く滞在することができません。海に見える木陰がいつぱいの空間ができると素敵だなと思います。	ご意見ありがとうございます。 新たな公共施設のビジョンの参考にさせていただきます。 グループヒアリングにおいて、ご意見を共有させていただきます。	意見	オンライン
19	ここでの求めたい複合施設は、地域の人に継続的に愛着を持たれて、地域外の人にも来やすい施設にするという事でしょうか？	現時点で社会教育施設を複合施設にするか、決定しているものではありませんが、これからの施設は、各施設の機能だけでなく、「市民の交流拠点」や「まちの居場所」等、これまでとは異なった役割を担うことを求められていると認識しています。 グループヒアリング等、市民との対話を実施し、市民ニーズに合った施設の将来ビジョンを策定することで、市民に愛着を持たれる施設づくりに繋げていきたいと思っています。まず第一に蒲郡市民に愛着を持たれることが、地域外の方も利用したいと思われることにも繋がるのではと思っています。	質問	オンライン
20	私は中学生ですが蒲郡市の予算・人員などを考えて何が可能なかなどを示してもらいたいです。	現時点で社会教育施設の維持・更新に係る予算について定まっているものではありません。 今後のグループヒアリングにおいても、多様な視点でご意見をいただきたいと考えています。	意見	オンライン

まちづくり市民フォーラム 基調講演後のご質問&ご意見 及び 回答一覧

番号	質問・意見内容	回答	質問/感想/意見/不明	オンライン/会場
<p>6～32：【蒲郡市からの回答】 ※質問・意見については、「オンライン（入力順）→会場」の順で掲載しています。 なお、内容が重複しているものについては、まとめさせていただきました。</p>				
21	博物館とかなにやっているのかわからないので、賑わいのあるようにしたらなにかやってくる面白そうとなったら行きやすいし、目について行きたくなるかなと思いました。	ご意見ありがとうございます。 ご意見の「賑わい」⇒「興味」へ繋がることも想定できます。 博物館の将来ビジョンの参考にさせていただきます。 グループヒアリングにおいて、ご意見を共有させていただきます。	意見	オンライン
22	平賀先生、恒川教授の考える蒲郡市の施設の方針についてなかなか興味深い意見を聞くことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができよかったです。これからの蒲郡市の発展に期待しています。	ご視聴ありがとうございます。 ご期待に添えられるよう、検討を進めてまいります。	感想	オンライン
23	博物館に企画力が無いのではとの意見ですが、蒲郡市の歴史は大変刮目する価値があり、自らの貴重な財産のはずであり、現在開催している「松平家ゆかりの文化財」は大変素晴らしい企画です。もっと市民が関心を寄せていいはずで、頑張っていると思います。	ご意見ありがとうございます。また、企画に対する評価もありがとうございます。 市民の関心が寄せられないこと、市民への発信力不足も博物館の課題の1つといえるのではないかと思います。なぜ関心が寄せられないのか、どのようにすれば市民へアピールできるのか、という視点についても、施設の将来ビジョンを考える上では重要な要素になると思います。 グループヒアリングにおいて、ご意見を共有させていただきます。	意見	オンライン
24	とても考えさせられました。 蒲郡市には8つの館があるのですが美術館が無い、映画館が無いと無いものばかり思っていました。 でも何にでも使用できるような空間があったらいいなと。公共施設ですが開かれたレンタルスペースとして気軽に利用できる場所とかがあったらぜひ使いたいと思いました。	ご意見ありがとうございます。 「公共空間（オープンスペース）」について、市は有効に活用することを推進していきたいと考えています。[東港まちづくりビジョン(案)より] 新たな公共施設のビジョン検討の参考にさせていただきます。 グループヒアリングにおいて、ご意見を共有させていただきます。	意見	オンライン
25	本日はありがとうございました。最後のパネルディスカッションをまとめた画像について、後日で構いませんので、ホームページにアップしていただくとありがたいです。	ご視聴ありがとうございます。 グラフィックレコード（画像）の件、掲載する方向で検討いたします。なお、グループヒアリング参加者へは資料として送付させていただきます。	感想	オンライン
26	先ほど退出しましたがアンケートが出ませんでした。	申し訳ございません。アンケート未回答の方を対象に、後日アンケートを再送させていただきます。	意見	オンライン
27	図書館内ではやはり「静かに」と思ってしまいます。静かに本を読みたい人と、読んで本にわからないところが出てきて、詳しく聞いたり疑問に思ったことを誰かと共有したいとき（人）、話せる場所があったらと思いますが、どう分けたいのか？ 図書館には、「本（図書館）」が好きな人、「音楽（市民会館で開かれるコンサートなど）」が好きな人、「歴史（科学館）」が好きな人、「アート（博物館）」が好きな人、たくさんのジャンルの人が集まる場所、始まりの小さな輪を作る。	ご意見ありがとうございます。 近年、新規オープンしている図書館では、原則会話フリー（音の制限がない）がベースで、静かなスペース・エリア（サイレントエリア・ルーム）を作ることで、利用者個人個人が居心地の良い場所を選び、そこで過ごしてもらおう、といったコンセプトの施設も多くなってきています。 市民の皆様の多様なニーズを最大限カバーできる施設のあり方について、検討する必要があると感じています。 グループヒアリングにおいて、ご意見を共有させていただきます。	意見	会場
28	・公共施設について 「自分たちの住むまちをどう変えていくかを考え、実現するのは、このまちに住むみなさんです」 「このまちに住むみなさん」＝市民が、どうまちづくりに関わっていくかは、市民のまちづくり、自分たちの住むまちづくりに対する（当事者意識）意識の教育が大切であると思います。小中高生から、どうまちづくりに関わっていく意識を育てていくかです。30年後、50年後の蒲郡のまちづくりを前提にした、学校での授業によって意識づくりをしていく必要があると思います。まちづくりは人づくりです。その人づくりに行政、公共施設も積極的に関わっていくべきだと思います。それを教育委員会や校長会が中心となって、計画を策定すべきではないでしょうか？	ご意見ありがとうございます。 小中高生から、どのようにまちづくりに関わっていく意識を育てるかという考えは、非常に共感いたします。 グループヒアリングにおいて、中高生にも意見を聴く機会も設定していますが、継続的に教育に取り込む仕組みについても、研究していきたいと思っております。 グループヒアリングにおいて、ご意見を共有させていただきます。	意見	会場
29	授業と図書館のコラボは実現してほしいと思いました。 図書館に行くにしても、お金はないし、車もないので、行きたくても回数に限りのある状況だったので、とてもうれしい案だと思いました。複合施設？は、過疎化が進んでいる地域に拓けば、活性化するのはではないでしょうか。とてもためになる話ありがとうございました。	ご意見ありがとうございます。 博物館、科学館では出前授業や施設見学などで学校授業と連携が行われていますが、その他の図書館等との連携や既に連携が行われている施設においても更なる連携を図ることが大切だと思います。 交通手段を持たない市民の方々にとって、公共施設がより身近になり、気軽に利用できるための視点についても、施設の将来ビジョンを策定する上では、重要な要素になると思います。 グループヒアリングにおいて、ご意見を共有させていただきます。	意見	会場
30	キーワードは、学び、当事者意識、創りだす、かなと。 サービスを受けるから当事者意識を持って関わるへシフトするのは、エネルギーがいるような気がする。でもそうならないと変わっていかないのでは？	ご意見ありがとうございます。 「当事者意識を持って関わる」ことへのシフトは、大変なエネルギーが必要だと感じております。市（行政）も、市民が当事者意識を持って関わる環境を整えることが大切だと認識いたしました。 市長の掲げる「対話」を重視し、みんなで取り組むまちづくりを推進していきます。 グループヒアリングにおいて、ご意見を共有させていただきます。	意見	会場
31	市民会館には、特別支援学校の児童の作品が飾ってあるときにしか行ったことがないし、図書館にもあまり足を運んだことはなかったけど、ちょっと行ってみようと思った。	ご意見ありがとうございます。 各施設の企画展などに対し、市民の関心を惹きつけられるようなPR活動も課題と考えております。 今回のフォーラムを通して、各施設について興味を持たれる方が少しでも増えましたら幸いです。	意見	会場
32	・子どもから高齢者が安心して集える施設の計画 ・気楽に出かけられる施設	ご意見ありがとうございます。 子どもから高齢者まで、といった多様性はこれからの社会において非常に重要な視点であると思います。 新たな公共施設のビジョン検討の参考にさせていただきます。 グループヒアリングにおいて、ご意見を共有させていただきます。	意見	会場